



秋田県立 比内支援学校 教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

【学校の現状】

- 在籍児童生徒については、次のような状況にある。
小学部は20名程度、中学部は25名程度、高等部45名程度、総計90名前後であり、今後もこのような傾向が続くことが予想される。高等部生を中心に寄宿舎を利用する生徒が多く、26名の利用者の約8割を高等部の生徒が占めている。児童生徒の約1割が肢体不自由を併せ有している。
- 地域と共に歩む学校を目指し、地域との共催行事の運営や地域コミュニティに貢献することや、交流及び共同学習などを積極的に進めている。
- 進路状況は、卒業生全体に占める一般就労率は、近年6割を超え、高等部単独設置の特別支援学校を除き、小中高等部を有する知的特別支援学校では全国トップレベルである。
- センター的機能に関して、大館市内の小・中学校との連携、市教育委員会、福祉関係機関との連携が進められ、さらに、高校との連携も進展してきている。

【課題】

- 社会や学校を取り巻く状況は変化し続けており、変化に対応しながら障害のある児童生徒が社会の中で価値ある存在となる教育活動を創造することが大切であるため、このことが実現できる学校づくりが急務である。
- インクルーシブな教育システムづくりに向け、幼保、各校種、地域社会との相互の接続を教育活動を中心に具現化する速度をあげる。
- 次の50年を見据えた、地域の特別支援教育の役割を担う校舎改築を具体化していきたい。

II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

【目指す方向性・学校像】

- 「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくり」を推進し、障害のある児童生徒が価値ある存在であることを、地域と共に具現化していく。
- 「子どもの思いや願いに応える」をキーワードとし、社会に参加する力を育む教育活動や実践研究充実事業を展開していく。
- 自分の気持ちや考えを表現し、最後までがんばり、社会を支えようとする子ども

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

比内支援学校が目指す学校の理念と実践

○地域を支える 社会参加型の学校づくり

○比内から秋田を変える

《自立と社会参加のネットワーク形成》

就学、地域の
学校を支える

- ・大館市内全幼保・小・中・高と連携
- 〈市障害幼児施設との連携〉
- ・日常的な職員派遣
- ・交流会、研修会の実施
- 〈高校との連携〉
- ・一体した就労支援
- ・研修会の実施

専門性を高める

- ・大学との連携
- ・医療・福祉との連携
- ・行政機関との連携
- ・地域人材の活用

児童生徒が社会に
参加する

〈一般就労〉

就労率6割以上達成(希望する生徒全員の就職決定)

- ・自分のよさを生かし、社会に貢献する。
- ・長所が生きる事業所を開拓する。

〈福祉的就労〉

希望するサービス利用の実現

- ・周りの人と一緒に楽しんで活動する。
- ・できることに頑張って取り組む。
- ・自分から行動する。

社会参加につながる
特色ある教育課程

〈比内スタンダードの確立〉

- ・本物、実社会につながる内容
- ・みんなが共に学び合い

育ち合う活動

- ・交流及び共同学習の質・量の向上

- ・希望する全児童生徒が居住地校交流を実施

地域を支える

- ・ボランティア活動(除雪、農作業、高齢者支援、環境美化、防災)
- ・地域との共催行事、地域行事への運営・参加
- ・特産品の開発、加工、販売(地域、高校等との連携)

地域の資源となる施設設備へ